

津々浦々

⑤1

津久見市長 吉本章司

平成26年度の

予算編成について

いよいよ4月より、平成26年度が始まりました。

我が国の景気は緩やかながら回復していると言われていますが、社会保障と税の一体改革に伴い、消費税が5%から8%に増額され、市民生活に少なからず影響が生じることが想定されます。

このように、環境が大きくかつ急速に変化している中にあっても、本市におきましては将来にわたり「自立できるつくみ」を目指し、市民と行政の協働により、目に見える形で元気ある津久見市、活力あるまちづくりを着実に進めていく事が重要となっております。

今年度の予算編成にあたっては「市民が何を望んでいるのか」を念頭に、そのためにはどうしなければならぬのか知恵を出し合い、歳入確保に努めるとともに、事業の必要性・

実効性・効率性を精査し、今年度も私の三期目のテーマであります、①安心して暮らせるまちづくり、②産業と経済の活性化、③保健、福祉、医療の充実、④地域づくりと人づくり、に力点をおいた総額98億7千7百万円の市長就任以来最大規模の当初予算額となっております。

今年度の主要な事業を見てみますと、ハード面においては消防機能と災害対策機能を強化するため新消防庁舎・防災拠点の建設を行います。し尿処理場も老朽化が激しく、現在地に新しく建て替えるとなると造成費も含め高額になることから、し尿の前処理をして下水処理場で処理できるように、し尿前処理施設を下水処理場内の敷地内に建設いたします。学校施設の耐震化を平成27年度までに終わらせる予定ですが、青江小学校の校舎に続き体育館の改築も行いま

すとともに、二中校舎の改築も進めていきます。また耐震化を済ませてある校舎内の、非構造部材（外壁や吊っている照明等）の耐震化工事も津久見小学校から始めてまいります。下浦トンネルの天井崩落による改修工事では市民の皆様には大変ご迷惑をおかけしていましたが、その徳浦く松崎線に代わる水晶山バイパスも進めてまいりますとともに、地区の道路や側溝などの整備を順次行い、利便性を計っていきたいと思います。

またソフト面においては、虫歯の罹患率が全国でも高い大分県において、罹患率が県内の3分の1程度の新潟県を見習って、幼児の歯のフッ素塗布を新年度から始めます。副作用を心配する声もあるようですが、30年前から実行している新潟県では副作用の事例もなく、大きな効果をあげていることから、今後、小学校でのフッ素洗口も視野に入れ進めてまいります。また、以前より求められていた病児保育、病後児保育であります、病後児保育を秋から開設いたしま

す。おたふくかぜ、水痘、肺炎球菌の各ワクチンの接種と、スムーズな就学に向けた対応ができるよう実施している5歳児検診などは、今までどおり続けてまいります。

本市では、平成20年度に「ふるさと津久見応援寄附金」をスタートしました。主に市外で活躍されている本市の出身者など多くの方々から、毎年貴重なご寄附をいただいております、平成25年度も220万円を上回る額となっております。これまで、お礼として市内の学校の校歌のCD等をお送りしてありますが、毎年ご寄附をいただいている方も多くおられることや、こうした応援の輪をさらに拡げていただければとの思いから、平成26年度から新たに1万円以上のご寄附をされた方に、ふるさとを思い出していただけのように、ささやかですが津久見の特産品をお送りすることとしました。これまでのご厚情への感謝とともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。